

糖尿病の薬物治療 ～お薬のはなし～

講師：村上記念病院 薬剤師

糖尿病とは？

- ・ 1 型糖尿病：インスリンを合成・分泌する膵臓のβ細胞が壊れ、インスリンが不足し血糖値が高くなる病気。
- ・ 2 型糖尿病：過食・運動不足・肥満や年齢、家族歴などによってインスリンの作用不足が起こり、血糖値が高くなる病気。

糖尿病による高血糖の状態が続くと、特有の合併症である小細血管障害（神経症、網膜症、腎症）や大血管障害（動脈硬化による脳梗塞、心筋梗塞など）が引き起こされ、健康寿命が短くなってしまいます。

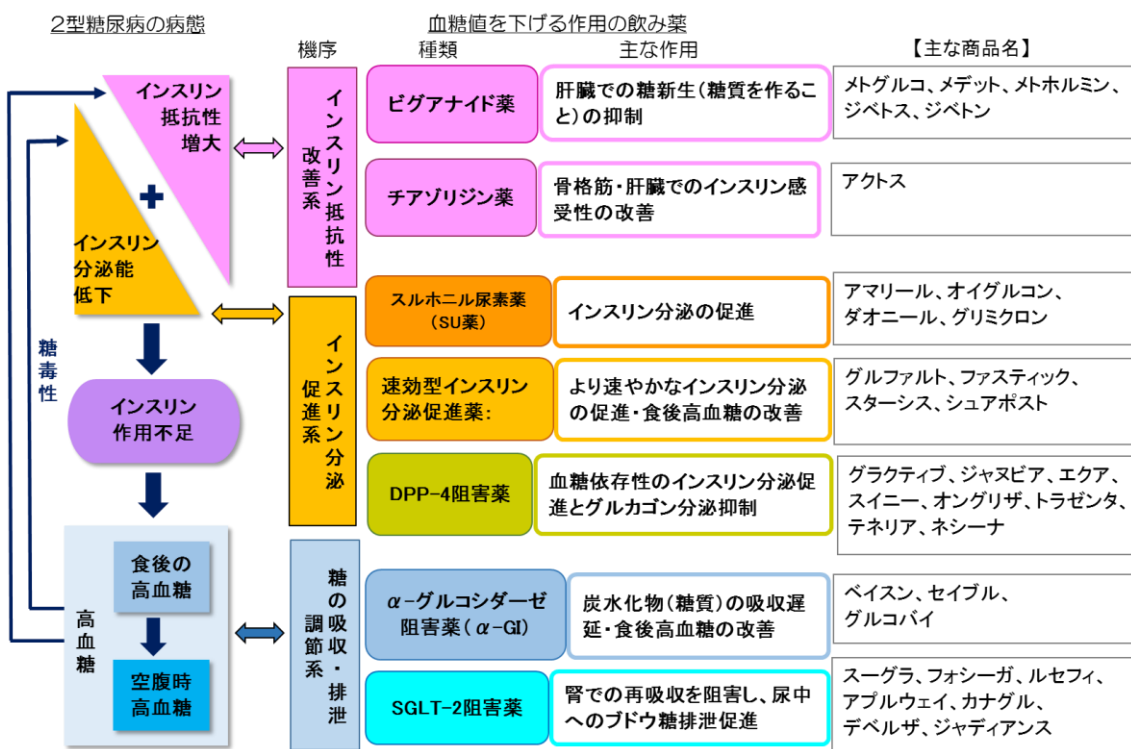
治療目標は、健康な人と同じ生活の質・寿命の確保！！

2型糖尿病の治療は？

食事療法、運動療法が主軸！！薬物療法は補助役です。（内服薬と注射がある）
「薬だけ飲んでいたらよい。」「インスリンだけしていたらよい。」という考えは間違い！！

2 型糖尿病と内服薬

糖毒性という悪循環を断ち切るために、さまざまな作用点の内服薬がある。

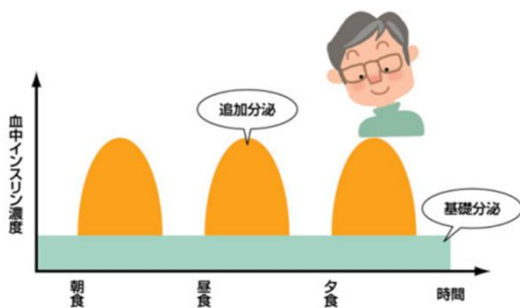


糖尿病と注射薬

インスリン製剤

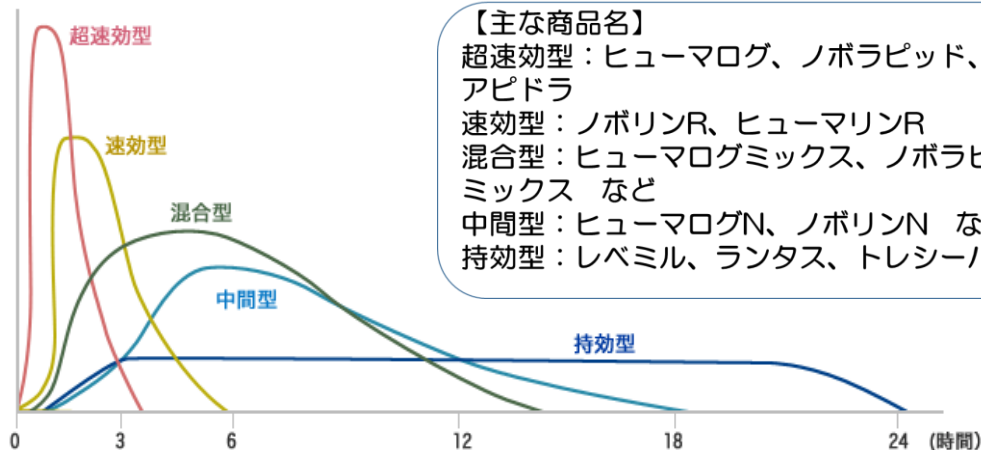
すい臓から分泌されるインスリンを、体の外から補充する。すい臓の負担を減らしてくれる。

*インスリンとは、血糖値を下げる働きのあるホルモン。すい臓から1日中分泌されている。健康な人は、下の図のようにインスリンの基礎分泌と追加分泌によって、血糖値を一定に保っている。



糖尿病の患者さんは左図のような分泌パターンになるように、インスリン製剤を使用します。そのため、1日1回タイプや1日3回タイプなど、いろいろな種類があります。

■インスリン製剤の種類と作用時間(作用イメージ)



【主な商品名】

超速効型：ヒューマログ、ノボラピッド、アピドラ

速効型：ノボリンR、ヒューマリンR

混合型：ヒューマログミックス、ノボラピッドミックス など

中間型：ヒューマログN、ノボリンN など

持効型：レベミル、ランタス、トレシーバ など

インクレチン製剤 (GLP-1 作動薬)

小腸から分泌されるインクレチン (GLP-1) を体の外から補充する。すい臓からのインスリン分泌を促進する働きがある。

1日1回タイプ、1日2回タイプ、また、週に1回タイプもあります。

*インクレチン (GLP-1) とは、体内で分泌されるホルモンのこと。食事をして小腸が刺激されると、小腸からインクレチンというホルモンが分泌され、すい臓からのインスリン分泌を促す。



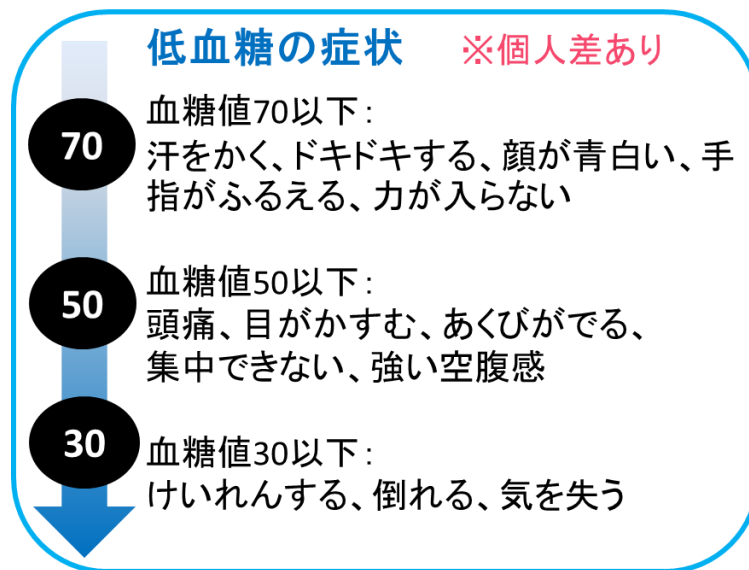
注射の針
(とても細いです)



糖尿病治療で気をつけるのは「低血糖」

低血糖とは、正常範囲以下に血糖値が低くなった状態（70mg/dL 以下）です。
低血糖になりやすいタイミングには気を付けましょう。

- ・ インスリンの種類、単位数が変わった。間違えた。
- ・ 食事をとる時間が遅れた。食事の量が少なかった。
- ・ お酒を飲んだ。
- ・ いつもより激しい運動をした。長時間の運動をした。
- ・ 食事の前にお風呂に入った。



低血糖だと感じたら・・・

ブドウ糖 10g、もしくは砂糖 20g を飲む。なければジュースでも可。

15分ほどでおさまらない時はもう一度。

（アメやチョコは吸収が遅いので適していません。）

※ α グルコシダーゼ阻害薬をいう薬を飲んでいるときは、ブドウ糖を飲んでください。（砂糖は×）

※運転中であれば、車を停めてから対処しましょう。

★できれば、自己血糖測定をしましょう。

症状も覚えておき、次に同じような症状が起こった場合には対処できるようにしておくのがいいです。主治医にも伝えてください。